

## 令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
宇都宮市立城山西小学校	宇都宮市教育委員会	公立

## 1. 特別の教育課程の概要

本校は、小規模特認校として地域の実情を踏まえ、「人間尊重」の教育を基盤とし知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健康で、豊かな心と確かな学力を身に付けた、たくましく生きる児童を育成することとしている。

- 情操豊かで、思いやりのある子供（やさしく）
- 自ら学び、よく考える子供（かしこく）
- 健康で、やりぬく子供（たくましく）

平成17年度より小規模特認校に指定され、特色ある教育活動を推進してきた結果、児童数の増加につながり、児童教職員ともに伝統ある学校としての誇りをもち、学校生活を送っている。それは、「小さな学校だからこそできること」をコンセプトに本校の特色ある教育活動を推進してきたからである。教職員の積極的な学校経営への参画のもと、「誰もが安心して学べ、活力あふれる学校」の実現を図るため、「一人一人を大切に授業」を中心にして、5つの公約「会話科の継続・充実」「文化人の先生方との授業実践」「地域との確かな連携」「食農体験を通じた食育の推進」「放課後活動（こがし桜スクール）の運営」を継続しつつ、「会話科」「食育」「体幹を鍛える運動体力の向上」の3点を柱として全教職員で指導に努めていきたい。

さらに近年は、3点の柱の一つの「会話科」について、さらに充実した活動や生きた学びにつながることを考え、各教育活動とのつながりにポイントを置き、教育課程を編成している。

本校の「会話科」は、子供たちが様々な人々と協力し共に生きるために必要なコミュニケーションを図ろうとする態度や、日本語によって考えたことや伝えたいことを目的や状況に応じて内容や趣旨を筋道立てて話したり、効果的な表現を工夫して伝えたりする能力を育成することを目標としている。さらに、日課を工夫し「英会話タイム」を位置付け、全学年で毎日「英会話」に触れることができるようにすることで、そこで経験する表現やコミュニケーションを生活の一部として取り入れられるように考えている。

その上で身に付けた力を、他教科・領域等で使ったり、他教科等と関連させて学ばせたりしていくことは、本校が目指す目標を達成するために有効であると考え、その点も考慮しながら編成をしている。

## 2. 特別の教育課程に基づく教育の実施状況に係る評価

項目	評価項目	主な具体的な取組	評価
	<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 授業を中心に、英語を使ってコミュニケーションを図ることの楽しさを味わえるよう、指導を充実させる。</p> <p>② 英会話タイムの充実を目指し、年に数回校内研修を行い、教職員の指導力の向上に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.2% 教職員の肯定的回答率 100.0% ・児童の肯定的回答率が、昨年度より3.8ポイント減少した。 ・外国語科になり、昨年度までの指導内容に変更があったことで、特に高学年児童にとっては戸惑いがあったと思われる。</p> <p>【次年度の方針】 ・高学年の教科書の内容も加味しながら、本校ならではの英語に特化した年間指導計画に基づいて指導を続け、必要に応じて加除訂正を行い、年間指導計画の改良を進めていく。 ・英会話タイム・授業の充実を目指し、来年度も定期的に校内研修を実施する。</p>
目指す児童の姿	<p>日本語や英語を使ったコミュニケーション能力を高めるための指導を推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は児童が日本語や英語を使って進んで表現したりコミュニケーションしたりできるよう指導を工夫している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 英語や日本語によるコミュニケーション能力を伸ばすために独自の会話科・外国語活動の年間指導計画について、必要に応じて内容の精選・検討をしていく。</p> <p>② 英会話タイムの充実と継続を全校体制で行う。</p> <p>③ 「英会話の時間」「外国語活動」については、教科化による、中学校へのつながりを意識した研究を推進する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.3% 保護者の肯定的回答率 99.0% 教職員の肯定的回答率 100.0% ・児童の肯定的回答率が、昨年度よりも3.6ポイント減少した。 ・コロナ禍により、コミュニケーション活動に制限が出てしまい、例年同様の活動ができないものがあった。</p> <p>【次年度の方針】 ・会話科(ことばの時間)、外国語活動、外国語科の年間指導計画を再検討していく。 ・今後もAETを中心に、英会話タイムの充実を図っていく。 ・学校だよりや学年だより等を使い、どのような学習を通して何を身につけることができるようになってきたかの情報を発信していく。</p>

### <学校関係者による評価>

- ・一人一人へのきめ細やかな指導，学校・家庭・地域の連携については，少人数であることによさが，肯定的回答率の高さにつながっている。今後もこの学校のよさを生かした学校運営や，効果的な取り組みを行ってほしい。
- ・今年度は新しい生活様式への変化に対応するだけでも大変だったと思う。外国語への取組においては，継続した指導がされていたと思う。
- ・英語の授業では，コミュニケーションを通して，楽しく学習していたと思う。

### 3. 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

保護者及び地域住民・関係者に対し、特別の教育課程に関する取組について説明してきた。本校の特色ある教育活動を理解してもらえるようにしている。また、学校だよりやホームページを通して、本校の取組について啓発している。

土曜授業日には、特色ある教育活動を地域や保護者の方に見ていただくことで、本校独自の教育活動を理解してもらえるようにしている。その中で保護者や地域をはじめ多くの方に公開する機会を設定し、学校の取組を紹介している。

### 4. 実施の効果及び課題

市の学習内容定着度調査の結果からは、外国語への興味が高いことが分かる。外国語を学ぶことが好きという児童は多く、市の平均を上回っている。これは、低学年から、英会話に親しんできている成果であると言える。

また、進んで話合いに参加していると答えた児童が多く、市の平均を上回っていた。理由や根拠をあげながら話せると回答した児童も多く、少人数での活発な意見交換を行う指導の成果の表れである。児童は様々な場面で進んでコミュニケーションを図り、考えたことや伝えたいことを、話したり伝えたりできると実感していることが分かる。

また、外国語・外国語活動・英会話タイムの年間指導計画を見直すことでさらに児童にとっての学習意欲へとつながるような取組にも着手している。

今後は、教科書の内容とすり合わせていくことで本校の外国語指導についてさらに研修を積んでいく必要があると感じている。

### 5. 課題の改善のための取組の方向性

課題改善のため、外国語科・外国語活動の目標、内容や他教科との関連などを検討し、年間指導計画の見直しに取り組んでいく。さらに職員研修の充実を図り、教職員の指導力の向上に努めていく。